

令和5年度 熊野学講演会

天守復興と城跡整備

—大阪城の事例紹介と近年の各地の課題—

豊臣秀吉が「天下統一」の拠点として築城した大坂城。その「豊臣大坂城」が大坂夏の陣で落城すると、今度は徳川幕府が北国・西国の64大名を動員する「天下普請」の形で新たな大坂城を築き直し、「徳川大坂城」は江戸時代、徳川幕府の西国支配の拠点として機能しました。

今回の講演では、そうした大坂城の歴史について概説するとともに、昭和6年(1931)我が国で初めての本格的な天守復興となった「大阪城天守閣」復興の経緯とそれにとまなう城跡整備について解説します。また全国城郭管理者協議会会長として北川氏が向き合った近年の全国各地の城郭が抱える課題や問題点について紹介します。



講師

きたがわ ひろし
北川 央氏

1961年大阪府生まれ。
神戸大学大学院文学研究科修了。
1987年に大阪城天守閣学芸員となり、
2014年からは大阪城天守閣館長を務め、
2022年3月末で退任。
現在は九度山・真田ミュージアム名誉館長。
元全国城郭管理者協議会会長。

『大坂城 秀吉から現代まで50の秘話』
(新潮社)
『大坂城と大坂の陣—その史実・伝承』
(新風書房)
ほか、著書多数。

参加
無料

事前
申込制

令和5年 **9月3日(日)** 14:00~15:30 (13:30開場)

新宮市文化複合施設「丹鶴ホール」1階 文化ホール

- ◆ 定員 100名先着順
- ◆ 申込み先 下記連絡先までご連絡ください。
(問合せ先) TEL: 0735-23-3368
FAX: 0735-23-3370
MAIL: bunka@city.shingu.lg.jp